

# 名古屋市 都市計画 マスター プラン2030



令和2年6月 名古屋市



## はじめに

名古屋の都市づくりは、慶長15(1610)年の名古屋城築城と「清須越」と呼ばれるまちぐるみの移転によって始まりました。その後、戦災復興事業をはじめとする土地区画整理など先人たちの大胆な都市計画により、市域の拡大とともに良好な市街地の整備が進められ、便利で快適な大都市名古屋が形成されてきました。

そうした中、令和9(2027)年に予定されているリニア中央新幹線の開業により、名古屋を取り巻く状況は大きく変わろうとしています。東京圏や大阪圏と一体となった世界最大の広域経済圏であるスーパー・メガリージョンの形成は、名古屋に多くの人を呼び込み、世界に冠たる“NAGOYA”となるための千載一遇のチャンスです。

また、平成27(2015)年9月の国連サミットで採択された、誰一人取り残さない、持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現のための国際目標である「SDGs」の達成に向けて、世界中が動き始めています。

一方、人口の減少、高齢者の増加、価値観の多様化、また東京への一極集中の進展など、本市を取り巻く状況は厳しさを増しています。中でも、技術革新に伴う産業構造の転換は、圏域の強み、豊かさの源泉である、本市のものづくり産業に大きな影響を与えかねません。

こうした本市を取り巻く課題を克服していくためにも、リニアインパクトを最大限に活かした都市づくりや、SDGsの達成に寄与する持続可能で強靱な都市づくりが必要であり、本プランでは、名古屋の特性を存分に活かしながら、「暮らす」、「楽しむ」、「創る・働く」という人々のライフスタイルの質を向上させ、多様な人々を惹きつける都市空間を実現することを、都市づくりの目標に掲げました。

本市では、平成23(2011)年12月に前計画となる「名古屋市都市計画マスタープラン」を策定し、集約連携型都市構造の実現を掲げ、平成30(2018)年3月には立地適正化計画として「なごや集約連携型まちづくりプラン」を策定し、その実現性を高めてきました。

その上で、本プランでは、都市計画のビジョンとして、都心から郊外まで、市内の各ゾーンの特性を活かした将来イメージを打ち出し、多様性や包摂性を備えた将来都市構造を掲げることで、具体的な都市空間のプラットフォームとしての役割を果たすものとして取りまとめました。本プランをもとに、新たな時代にふさわしい豊かな未来に向けた都市づくりを市民の皆さまと進めていきたいと思っております。

# INDEX

## はじめに

CHAPTER **01** 策定にあたって

01

CHAPTER **02** 市を取り巻く状況

03

CHAPTER **03** 都市づくりの目標

15

CHAPTER **04** 将来都市構造

31

CHAPTER **05** 施策の展開

57

CHAPTER **06** 地域まちづくりの推進

99

CHAPTER **07** 地域別構想

107

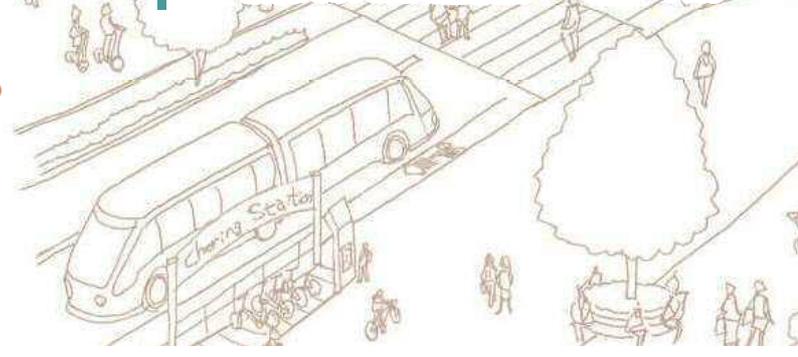
CHAPTER **08** プランの推進にあたって

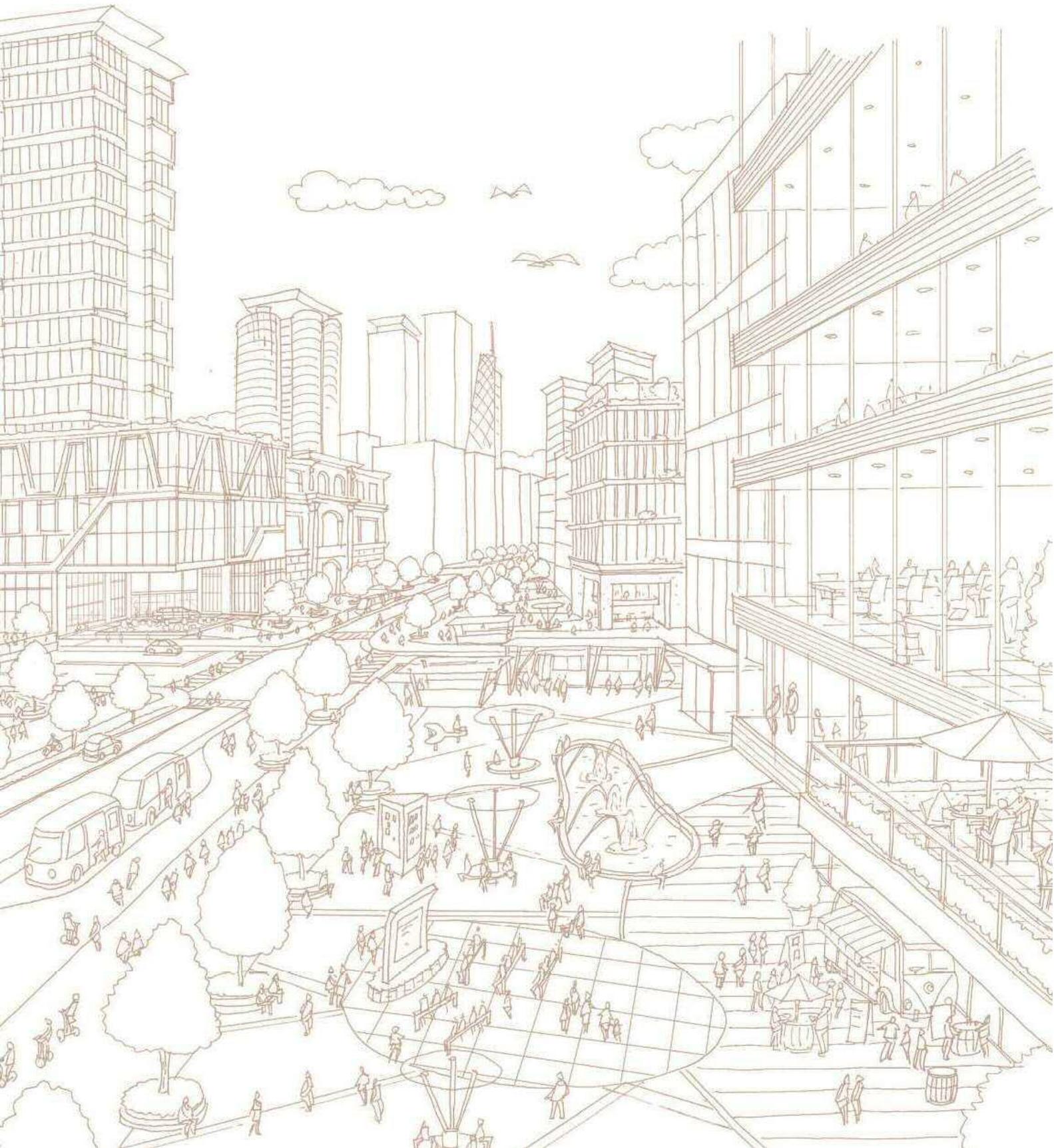
111

地域別構想“都心部編” ——— 115

参考資料 ——— 131

1-1	策定の目的	P02
1-2	位置づけ	P02
1-3	目標年次	P02
1-4	対象区域	P02
1-5	構成	P02
2-1	位置と地形	P04
2-2	都市づくりの変遷	P04
2-3	時代の潮流	P08
2-4	名古屋の特徴	P12
3-1	広域的な都市の将来像	P16
3-2	2030年に向けた都市づくりの考え方	P18
3-3	都市づくりの目標	P21
3-4	都市づくりの方針とリソース	P24
4-1	基本的な都市構造	P32
4-2	都市づくりの目標の構造化	P33
4-3	将来都市構造図	P36
4-4	各ゾーンの将来イメージ	P38
4-5	各ゾーンの密度イメージ	P50
4-6	重点的にまちづくりを展開する地域	P52
5-1	方針別の施策の方向性	P58
A	土地利用	P58
B	交通	P64
C	防災・減災	P72
D	環境	P78
E	住宅・住環境	P82
F	都市魅力	P86
G	産業・イノベーション	P90
5-2	SDGsの達成に向けた施策展開のイメージ	P94
5-3	横断的な施策展開のイメージ	P96
6-1	地域まちづくりとは	P100
6-2	地域まちづくりの必要性	P101
6-3	地域まちづくりの取り組み	P102
6-4	地域まちづくりのプロセス	P104
6-5	地域まちづくりの推進	P105
7-1	位置づけ	P108
7-2	役割(目的)	P108
7-3	内容	P108
7-4	策定までのプロセス、運用方法	P109





# CHAPTER 01 策定にあたって

1-1 策定の目的

1-2 位置づけ

1-3 目標年次

1-4 対象区域

1-5 構成

# CHAPTER 02 市を取り巻く状況

2-1 位置と地形

2-2 都市づくりの変遷

2-3 時代の潮流

2-4 名古屋の特徴

# CHAPTER 03 都市づくりの目標

3-1 広域的な都市の将来像

3-2 2030年に向けた都市づくりの考え方

3-3 都市づくりの目標

ゆとりと便利が織りなす多様で持続可能な **生活空間**

歴史と未来の融合で磨くオンリーワンの **体験空間**

技術力と経済力で輝くグローバルな **創造空間**

3-4 都市づくりの方針とリソース

方針

A 土地利用の適切な誘導

B 自由で快適な移動の実現

C 災害に強く安全な空間の形成

D 環境にやさしい空間の形成

E 住みよい居住空間の形成

F 魅力ある賑わい空間の形成

G 産業・イノベーション空間の形成

H 地域主体のまちづくりの推進

リソース



01 ヒト



02 モノ



03 カネ



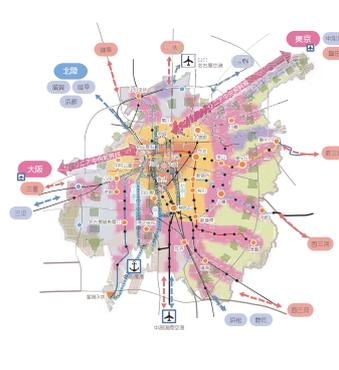
04 情報・技術

# CHAPTER 04 将来都市構造

4-1 基本的な都市構造

4-2 目標の構造化

4-3 将来都市構造図



# CHAPTER 05 施策の展開

5-1 方針別の施策の方向性

A 土地利用

B 交通

C 防災・減災

D 環境

E 住宅・住環境

F 都市魅力

G 産業・イノベーション

5-2 SDGsの達成に向けた施策展開のイメージ

5-3 横断的な施策展開のイメージ

# 都市 レベル

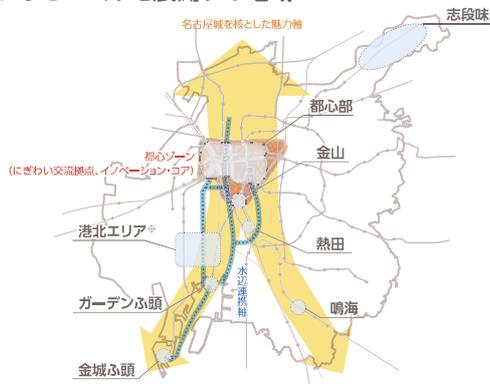
# 地域 レベル

## 4-4 各ゾーンの将来イメージ

拠点市街地		駅そば市街地		郊外市街地		その他	
都心	地域拠点	都心周辺	駅そば	準駅そば	西部郊外	東部郊外	港湾産業 自然共生

4-5  
各ゾーンの  
密度イメージ

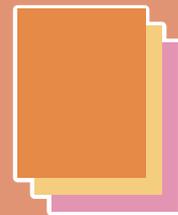
## 4-6 重点的にまちづくりを展開する地域



各地域の  
地域別構想

## “都心部編” (方針型)

“都心部編”以外にも、  
地域の実情に応じ、随時策定



## CHAPTER 06 地域まちづくりの 推進

### 6-1 地域まちづくりとは



6-2 必要性

6-3 取り組み

6-4 プロセス

6-5 推進

## CHAPTER 07 地域別構想

7-1 位置づけ

7-2 役割(目的)

7-3 内容

7-4 プロセス、運用

## CHAPTER 08

プランの  
推進に  
あたって



CHAPTER

# 01

## 第1章 策定にあたって

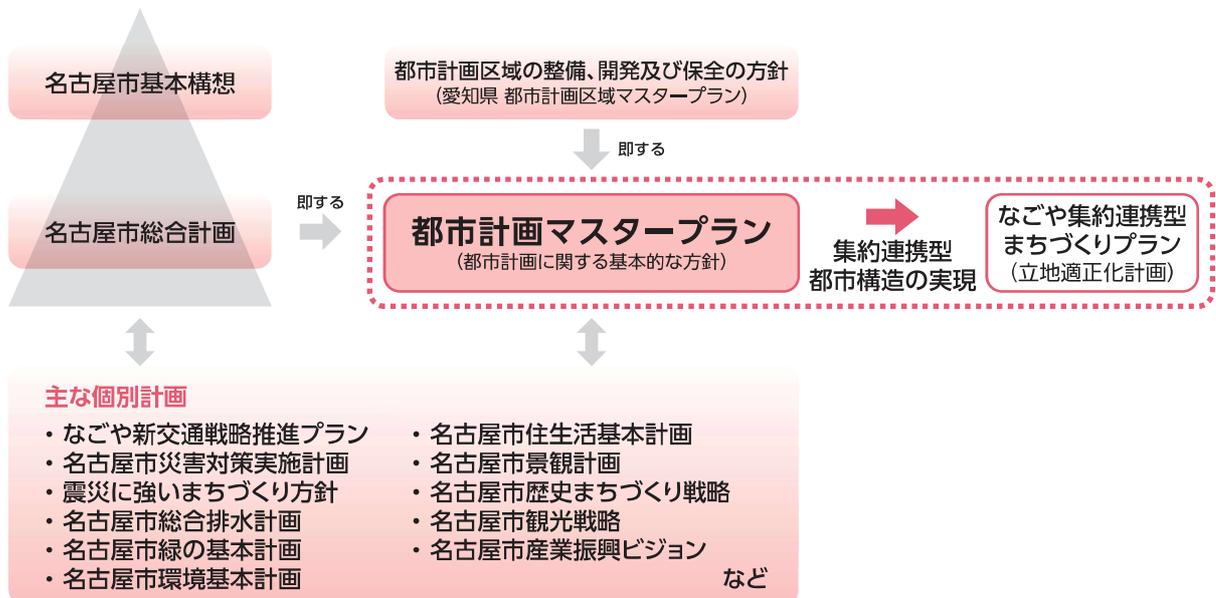
- 1-1 策定の目的
- 1-2 位置づけ
- 1-3 目標年次
- 1-4 対象区域
- 1-5 構成

### 1-1 策定の目的

- 長期的な視点に立ち、将来の都市像や都市づくりの方向性を示します。
- 地域住民・企業・行政などの協働によるまちづくりを進めるガイドラインとします。
- 今後の都市計画の決定や見直しにあたっての方針とします。
  - ※「都市づくり」は都市レベルの取り組み、「まちづくり」は地域レベルの取り組みとしています。
  - ※都市計画の見直しにあたっては、都市をめぐる状況の変化に柔軟かつ迅速に対応するために、必要性や実現性などを十分に検証した上で行います。

### 1-2 位置づけ

都市計画マスタープランは、都市計画法第18条の2に規定される「市町村の都市計画に関する基本的な方針」であり、市の総合計画や個別計画との関係は、下図のとおりです。



### 1-3 目標年次

目標年次は、概ね20年の長期的な見通しのもとに、令和12(2030)年とします。

### 1-4 対象区域

名古屋市全域を基本とし、広域的な交流・連携についても考慮します。

### 1-5 構成

本プランの構成は、全体構想と地域別構想の二層構造とし、都市レベルの視点と地域レベルの視点から方向性を示します。

地域別構想は、地域の実情に応じて随時位置づけていきます。

